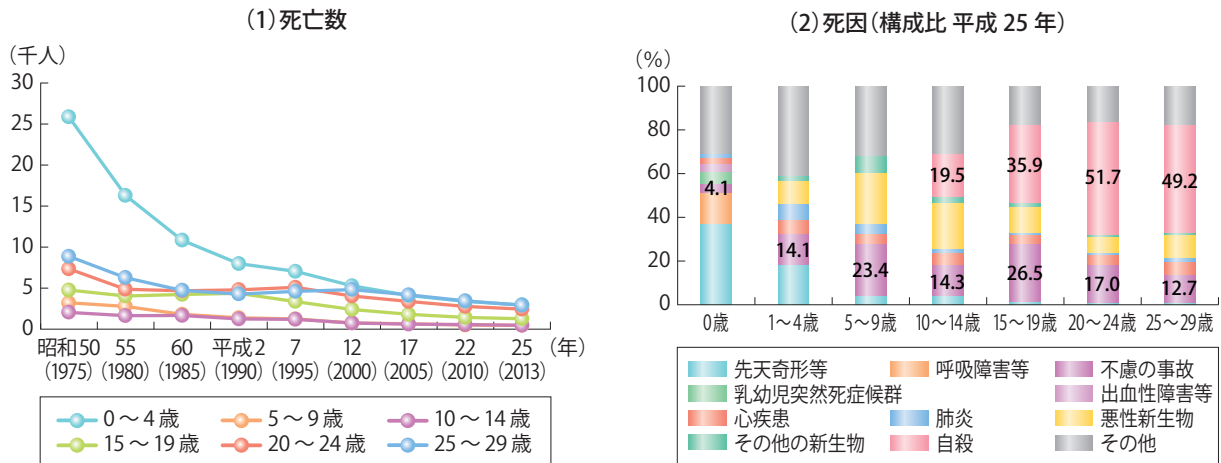


(死亡)

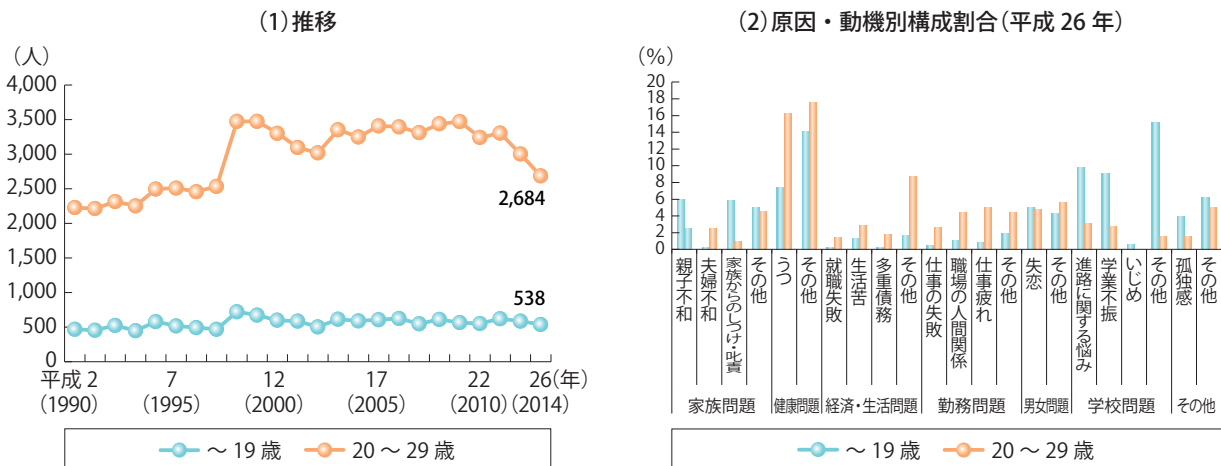
- 死亡数は、0～4歳が最も多く、次いで25～29歳。死因は、10歳未満では不慮の事故などが多く、10代以降では自殺が不慮の事故を上回る。(図表3)
- 警察が把握した30歳未満の自殺者数は3,222人。原因・動機をみると、「うつ」などの健康問題が多く、19歳以下では学校に係る問題も多くを占めている。(図表4)

図表3 死亡数



(出典) 厚生労働省「人口動態統計」
 (注) (2) の死因名について、「心疾患」は「心疾患 (高血圧性を除く)」を、「先天奇形等」は「先天奇形、変形及び染色体異常」を、「呼吸障害等」は「周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害」を、「出血性障害等」は「胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害」を、それぞれ指す。

図表4 自殺者の状況



(出典) 内閣府・警察庁「自殺の状況」
 (注) (2) の原因・動機は、遺書などの自殺を裏付ける資料により明らかに特定できる原因・動機を自殺者一人につき3つまで計上したものの。

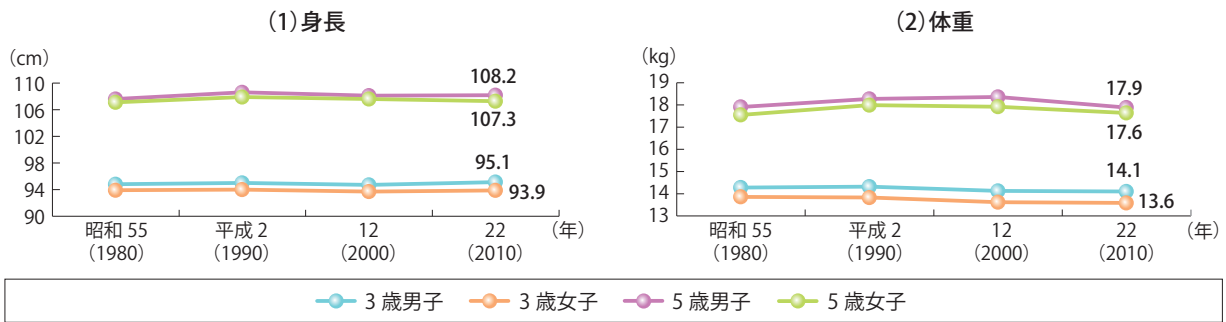
第2章 健康

第1節 発育

1 体格

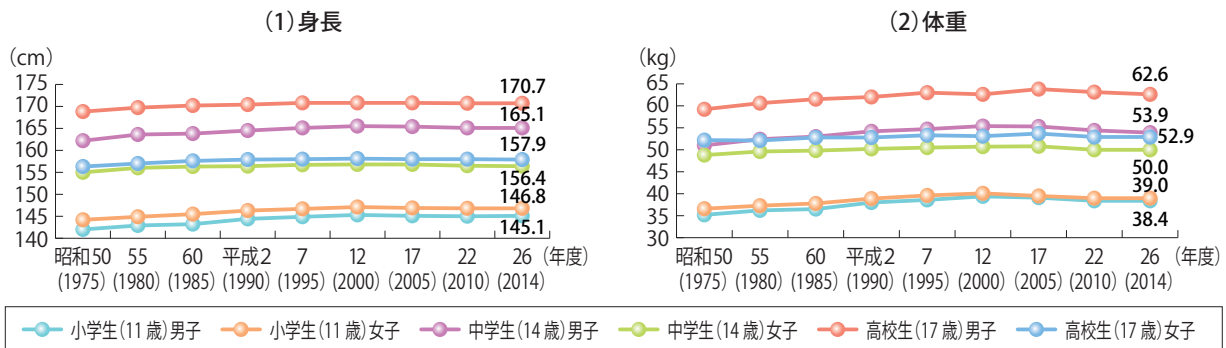
- 身長はおおむね横ばいである一方、小学生・中学生の体重が減少傾向。(図表5, 図表6)

図表5 幼児の身長・体重（平均値）



(出典) 厚生労働省「乳幼児身体発育調査」

図表6 小学生・中学生・高校生の身長・体重（平均値）

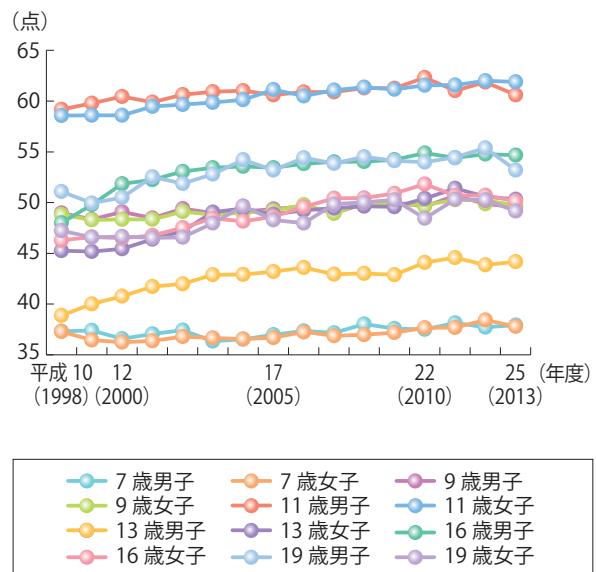


(出典) 文部科学省「学校保健統計調査」

2 体力・運動能力

○小学生・中学生・高校生の体力・運動能力は緩やかな向上傾向。(図表7)

図表7 6～19歳の運動能力（新体力テストの合計点）



(出典) 文部科学省「体力・運動能力調査」

(注) 1. 新体力テストは平成10年度から実施。

2. 7歳と9歳は昭和58年度から調査開始。19歳は昭和50年度には調査が実施されていない。